

TAKE FREE

富士北麓の輝きを知るフリーマガジン

# シルベ! @

山梨・富士北麓地域の**魅力**あふれる  
**無料誌、創刊!**

vol. **01**  
2016 夏

巻頭特集

「私は、北麓を選んだ。」

グルメ特集

誕生! 「新グルメ通り」

求人特集

富士のふもとで、働く、輝く!

# 富士北麓の風土が生んだ 「光熱費ゼロ住宅」の真実

株式会社シーズン

**富**士山に抱かれた富士北麓地方。その厳しい気候に合った快適な住宅を供給しているのが、富士吉田の株式会社シーズンだ。特徴は、高気密・高断熱の耐震住宅。しかも「光熱費ゼロ」が実現できるという。その秘密に迫った。

## 寒くないのが当たり前 ヒントは北海道に

なぜシーズンの家が富士北麓に適しているのか。カギは北海道にあった。「富士北麓の寒さは札幌に匹敵します。ですが、実際に訪れた札幌の住宅は、全然寒くなかったんです」と語るのは、社長の武藤啓史さん。北海道では、気密性や断熱性に優れた住宅の普及が目覚ましい。それに感銘した武藤社長が、ふるさと・富士北麓のために開発したのが、シーズンの住宅だ。

まずは耐震性能。パナソニック耐震住宅テクノストラクチャー工法の採用



で、全棟、国が定める耐震基準の最高等級を取得している。

2つめの特徴は、超高気密・高断熱。外張り断熱と充填断熱のダブル断熱を採用し、高い施工技術により、地域の基準をはるかに上回る気密性を実現した。冷暖房費が大幅に削減できるため、太陽光発電と合わせれば「光熱費ゼロ」になるというわけだ。

## 「建ててからが楽しみ」 年間10棟の丁寧な仕事

真相を探るべく訪れたのは、富士吉田市の高根広樹さん、教子さんご夫妻のお宅。2人は昨年4月、シーズンで念願のマイホームを手に入れた。

シーズンとの出会いは4年前の冬。「知人が家を新築したので見に行ったんです。真冬の1月なのに家の中がポカポカ。なんでだろうって」

その家こそが、シーズンの住宅。2人の子どものため、耐震性と快適さを備えたマイホームを求めて3年間検討した末、シーズンを選んだ。

「地元密着で、親身になってくれるところが決め手でした。細かいところも丁寧に説明してくれるし、わがままもたくさん聞いてもらいました(笑)」  
階段下を利用した可動式の収納棚や、

広い洗濯スペースなどは、夫婦の希望をもとに担当者が提案して実現。同社が年間10棟しか手掛けないのも、施主に向き合った丁寧な家づくりの証だ。

ところで、気になる光熱費は？  
「ゼロどころか、年間でプラスになっているくらいです。1年暮らしてみましたが、本当に快適ですよ」と広樹さん。取材当日は10℃台と肌寒かったが、2人のお子さんは薄着で元気に遊んでいる。

「とにかく、嘘はないなって。先日も1年点検をしてくれたり、建てた後も丁寧。悪いところを見つけれのが大変です」と目を細める。

最後に、教子さんが記者につぶやいたこの言葉が、満足度を物語っていた。「子供たちも成長して、環境も変わるとは思いますけど、これからこの家で暮らしていくのが、すごく楽しみです」

### COMPANY INFO

株式会社シーズン

富士吉田市竜ヶ丘 1-10-25

0555-72-8114 info@seasons-e.com

HP www.seasons-e.com



私たちは県内で唯一、全社員がBIS(断熱施工技術者)資格を保有。  
山梨の住宅性能向上のリーディングカンパニーです。



## 巻頭特集



# 私は、北麓を選んだ。

最近よく耳にする、「Uターン」「Iターン」という言葉。一度地域の外に出て戻ってくる人、違う土地から移住してくる人を、こう呼ぶ。じつは、そんな若い人が富士北麓に増えつつある。人口が減り続けるこの地域にとって、U・Iターン者を増やすことは大事なテーマ。移住してきた人のリアルな声を聞いた。

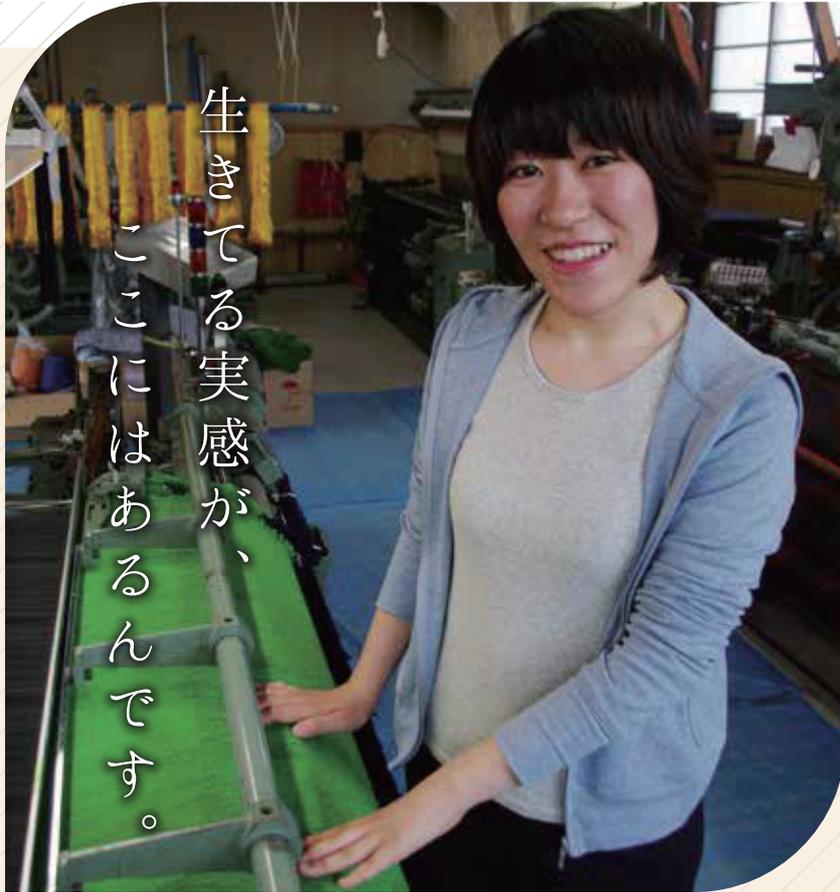
# 乃<sup>の</sup>一<sup>いち</sup>仁美<sup>さん</sup>

織物職人  
26歳

File 01

## Profile

名古屋市出身。大学卒業後、機械設計会社で勤務し、昨年11月、富士吉田市に移住。



生きてる実感が、  
ここにはあるんです。

富士吉田の明見地区。田園地帯に佇む機屋さん「宮下織物」に、彼女の姿があった。重厚な織機がリズムカルに糸を繰り出し、生地を生み出す傍らで、まるでわが子を見守るようなまなざしを向ける。

「糸に触れている時間が、一番落ち着くんですよ」

初めて富士北麓を訪れたのは5年前。富士吉田出身の故・志村正彦さんが率いたバンド「フジファブリック」のコンサートだった。

「母が大ファンで（笑）。私もいつの間にか好きになってました」

年数回訪れるようになった富士吉田について調べるうち、あるブログを通して織物の危機を知った。近年、職人たちが高齢化し、次々に廃業しているという事実だった。

「何とかしないと」  
とっさにそう考えた。具体的なイメージはないけれど、何か行動を起こしたい。富士吉田を訪れ、織物に触れるたび、その思いは強くなった。

「素直に、どれもステキなものばかり。ずっと見ていると、見飽きない。そういうものを、日本にずっと残していかなきゃって思ったんです」

折しも、大都市・名古屋での働き方に悩みを持っていた時期。自分が本当にやりたいことは何だろう。そんな問



巨大な織機が竹む工場

師匠は90歳の大ベテラン

いの答えが、見つかった気がした。それから2年。転職してまだ半年だが、早くも一人で工場に立っている。

「織物はその日の湿度だって仕上がりに影響するし、『いつもと同じ』が通じない。とっても難しいです。でも、心から好きなことをできているから、楽しいですよ」と微笑む。

「この地域って、自然の中に暮らしがある。冬はすごく寒いけど、生きてる実感があるんです。それに、元気でカッコいいお年寄りが多いのも魅力。そんな富士吉田の織物を、世界に誇れるものとして発信していきたいですね」

# 吉澤拓哉

さん

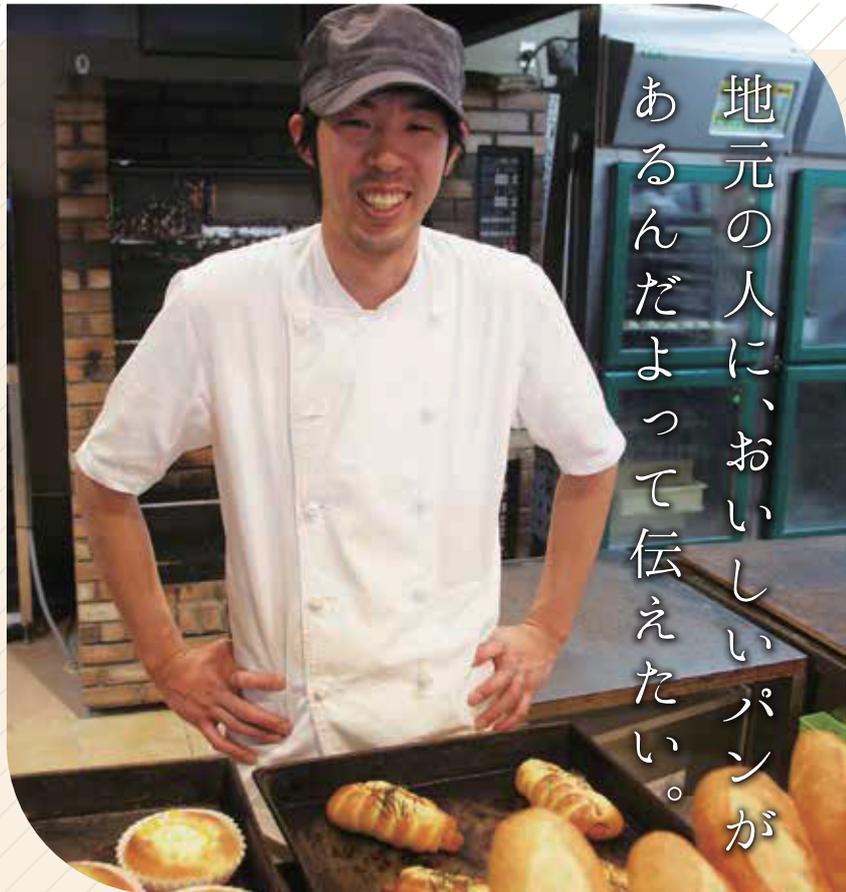
パン職人

29歳

File 02

Profile

富士吉田市出身。大学卒業後、川崎市のパン店で6年間勤務し、昨年3月にUターン。



地元の人に、おいしいパンがあるんだよって伝えたい。

「味はもちろん、歯触りや香りも重要。目指しているのは、『五感』を刺激するパンです」

こう語る、パンの老舗・サンクルーの3代目。6年前、川崎市内の製パン店で修業を始めたのは、実家を継ぐと腹を決めたことだった。

「『家業だからいずれば継ぐ』。最初はそれだけ。会社だけ受け継いで、別のことをしてやろう、なんて思った時期もありました（笑）」

朝は早く、体力勝負のイメージがあるパンづくり。だが、吉澤さんは勤め続けるうち、あることに気づいた。

「楽しいんですよ。単純に。やってるうちに、どんどんパンづくりにハマっていききました」

これが原動力となり、考案した新商品は次々にヒット。店舗のチーフにも就任したが、昨年春、「力試し」を故郷に戻り、サンクルーに入社した。

「うちにはベテランの職人がいる。良い素材があつて、良い生地がつけれる。でもそれだけじゃだめだなんて」

さっそく社業の改革にとりかかった。まず、従来1日2回程度だった焼成回数を、生地の冷蔵方法を見直すなどして最大6回に。いつでも焼きたてを提供できるようにした。また、既製品を使っていた惣菜パンの具材も、手作りするよう改めた。

「手間はもちろんかかりますけど、その方が絶対おいしい。お客様に求められているのはそこなんです」

こうした1年間の取り組みは、売上アップに貢献。開発した新商品も定着している。

「この地域はとにかく水がいい。生地づくりには水が60%くらい入るので、味を左右します。富士山のミネラルが、おいしいパン作りには良い。だからこそ、世の中にはもっとおいしいパンがあるよって、この店を通して地域の人に伝えたいですね。いつも『新しい発見』があるパン屋にしていきたいです」



午後もこまめにパンを焼き、温かいものを提供する



豊富なアイテムを売場に並べ、「発見」を演出

# 白井 秀典 さん

ゲストハウス経営  
30歳

File 03

Profile

都留市出身。大学卒業後、都内の広告代理店に7年間勤務し、ことし帰郷。  
8月、富士吉田市でゲストハウス開業予定。



旅人と地域がつながる  
“きっかけ”の場を  
つくりたいんです

横町バイパスの喧騒を後目に、川沿いの道に入る。なおも彼の後をついていくと、意外なくらいすぐに、深い森にたどり着いた。

「すごいでしょ!? こんな近くに森があつて、鳥がさえずってるんです。この場所に惚れました」

東京での生活は充実していた。宣伝のプロとして、広告代理店で送る多忙な日々。しかし、あるとき友人に言われた言葉が引かかっていた。

「『それを仕事にすればいいじゃん』つて。友人を連れて地元を案内していたときのことでした」

大好きな地元について話すときが、一番輝いている。そんな本当の自分に気づきはじめて1年前、仕事を通してゲストハウスの存在を知る。

「これだな！つてストーンと胸に落ちました。山梨には何も無いっていうけど、本当はめちゃめちゃいろいろある。それを伝えられる場をつくりたくて」

スタートした、たった1人の挑戦。しかし物件さがしは難航を極めた。やがて年が明け、季節は春。半ばあきらめながら、森の気配に誘われて迷い込んだ路地で、自らの足でたどりついたのが、旧社員寮のこの物件だった。

「大家さんを探して、通いつめました（笑）。でも、宿は大家さんの夢でもあったみたいで。今は『一緒に夢を叶



たった一人の開業準備。協力者も徐々に増えている。



共用部の改装計画。テーマはアウトドアだ。

えよう」つて応援してくれています」

「きっかけ」と名付けられたゲストハウスのテーマは、「つながりの場」。

アウトドアを体験できる客室や、近所のおばさんが手製の漬物を広げられるような時間貸しのシェアスペースなど、アイデアは尽きない。8月のオープン時には、2階から餅をまく、地域伝統の「上棟式」も行うつもりだ。

「都会からふらつと来て、気軽に自然と近づける。そこで人と出会い、山梨という地域と出会う。そんなふうに、旅人と地域がつながる、きっかけの場をつくっていきます」

## 北麓 U・Iターンのリアル

増えつつあるUターンIターンだが、実際にはいくつかハードルがありそう。住まいと仕事にスポットを当てて、北麓移住のリアルを考える。



お話をうかがった富士吉田定住促進センターの渡邊麗さん(右)と渡邊和奈さん

### 富士吉田市の定住促進奨励金

- ① 新婚世帯家賃支援奨励金(上限1.5万円/月)
- ② 中古物件利用者家賃支援奨励金(上限3万円/月)
- ③ 新築物件取得支援奨励金(上限100万円)
- ④ 中古物件取得支援奨励金(上限50万円)
- ⑤ 遠距離通勤支援奨励金(12万円/年)
- ⑥ 中古物件改修支援奨励金(上限50万円)

※いずれも要件あり。実施は2018年3月末まで。

移住・定住の最初のハードルは、住むところ。富士北麓地域は賃貸物件が少ないうえ、他の地方に比べて相場がやや高めだ。移住者向けの奨励金も、新築物件に対象が絞られている自治体が多く、物件探しは簡単ではない。しかし近年では、各自治体で「空き家バンク」制度を設けたり、富士吉田市のように中古や賃貸物件にも奨励金を交付する制度が新設されるなど、移住促進に向けた新しい動きが出てきた。富士河口湖町が行っている1カ月からの「体験移住」や、「移住者パーティー」など、ソフト面でのサポートも広がりがつつある。これがうまくつながれば、移住がぐっと現実的になる。

## 住む

### 賃貸物件が不足 行政のサポート拡充へ

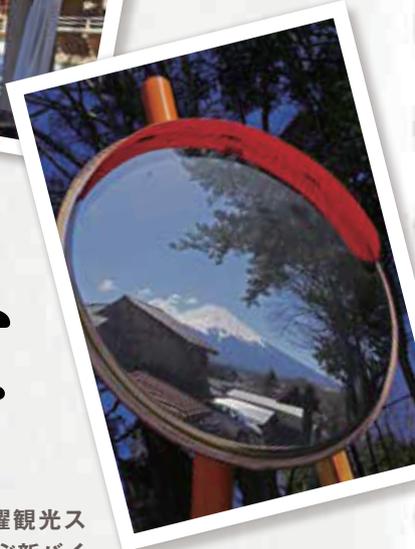
## 働く

### 選べる業種は少なめ 起業や中小でやりがい

そして最も高いハードルが、働く場だ。とはいえ、ことし3月の求人倍率は、富士吉田公共職業安定所管内で1・54(厚生労働省調べ)と県内最高。人材紹介会社・日富士(富士吉田市)の鎌倉慎一郎さんは、「宿泊業やサービス業など、観光産業が強い富士北麓は、県内の他地域より求人が多く、人材が足りないほどです」と話す。ただ、多いのは非正規のパート・アルバイトの求人。移住・定住を後押しする正社員の募集は、業種が限られているのが実情だ。「選ばなければ職はある。ですが、移住者にとってはその内容は重要です」こう話すのは、富士吉田定住促進センターの渡邊麗さん。移住を希望していても、東京でしていたような職が見つからず、断念した人も多いという。



一方で、こんな見方もある。「むしろ、起業される方や、フリーランスの方は、すんなり移住してきているイメージです」と、同センターの渡邊和奈さん。先ほどの鎌倉さんも、「この地域は中小企業が多い。ですが、任せてもらえる仕事の範囲が広かったり、ちょっとした時間の融通が効いたり、やりがいや働く環境の面ではプラスと捉える人も多いです」と指摘する。特集で取り上げた3人も、元々は大都市で働いていた。いずれも大企業に就職したわけではないが、都会での経験をベースにしながら、やりがいのある仕事を獲得して定住している。そこに、U・Iターンを増やすヒントがある。富士山を中心とした観光はもちろん、日本一の生産量を誇るミネラルウォーター、国際競争力を持つ織物など、富士北麓ならではの産業の魅力を発信し、働き手とつなげる。その仕組みづくりができれば、多くの人をこの北麓に呼び込めるはずだ。



## エリア特集

あたらしい

# 新倉の歩きかた



今回取り上げるのは、富士吉田の新倉エリア。一躍観光スポットになった「忠霊塔」や、河口湖と富士吉田を結ぶ新バイパスの開通など、なにかと話題になっている。知っているようで知らない、あたらしい新倉の姿を探しに出かけた。

昭和30年代、新倉山からとらえた一枚。手前にある小舟山は、中央道建設のために削平され、住宅地となっている。  
提供／写真のオリエント

**新** 倉の歴史は、とにかく古い。じつは富士北麓で最も早く人が住んだ地区のひとつで、エリア西側の山中には「池之元遺跡」と呼ばれる8000年前の縄文遺跡がある。かつて「アラ蔵」

「荒倉」とも書かれたが、地名の由来は謎のまま。この地を訪れていた弘法大師が富士山の噴火を見て、「アラ暗い」と言ったのが始まり、という説もある。さすがに、そんな悠長なことを言っているヒマはなかった!?

さて、そんな新倉の中心的存在は、正福寺、如来寺、大正寺の通称「新倉三山」。そして、忠霊塔を擁する新倉山には新倉富士浅間神社が鎮座する。神仏に守られた、北麓有数のパワースポットといえるかもしれない。

周囲は田畑も多く、のんびりとした雰囲気が漂って……というのは昔の話。最近はこちらと様子が違う。道端で交わされる言葉は、地域のことば「郡内弁」ではなく、外国語!

そう、世界的な観光スポットとなった忠霊塔を目指して、さまざまな国の旅人が、新倉を歩いているのだ。記者が祖母に手を引かれて忠霊塔に登っていた頃には、とても想像がつかなかった光景だ。そんな変化に富んだ新倉のあれこれを、次ページで紹介する。

シルベ!

シルベ!記者が歩いて探した、新倉のさまざまなトピックを、  
マップとともに一挙紹介!

# あたらしい新倉マップ

あらくら

国際ストリート

## 忠霊塔のいま

忠 霊塔は、1963年に建設された、  
戦没者慰霊塔。3年ほど前、タイ  
の観光客が撮影した写真がフェイスブッ  
クで広がり、一躍観光スポットになった。  
新倉富士浅間神社の宮司・渡辺主計さん  
は、「下吉田駅から忠霊塔に至る道を、  
地元では『国際ストリート』って言うて  
るんです」と笑う。

「自然の中にあるチューレイトーが好  
き。何もないけど、このままの街並み  
が良いね。最低限、トイレがあればい  
いかな(笑)」とは、タイから来た旅行  
客のプルックさん。どうやら、観光地  
化されていないところも受  
けている様子。

日本のメディアでも相次

まぶしい笑顔のタイ人  
カップルをパチリ。神社の  
絵馬も外国語だらけだ



イラストマップ/中山成子

まだまだある!

## 新倉山の楽しみかた



### Cafe cherry

もとは民家。おしゃれな外観から、カフェと間違えて迷いこむ外国人が多いため、思い切ってカフェを初めてしまったのが、このお店。コーヒーは300円〜で、テイクアウトOK。パフェやソフトクリームなども。

富士吉田市新倉21 ☎0555-24-0192

### 李良枝 文学碑

芥川賞作家・李良枝の文学碑が今春、新倉山浅間公園に完成した。在日韓国人2世として富士吉田で育った李良枝。1989年に「由熙」(ユヒ)で芥川賞を受賞したが、1992年、37歳で急逝した。碑には、彼女の2つの故郷への思いが刻まれている。



### アヤメ群生地

忠霊塔をさらに15分ほど上ったところにあるアヤメの群生地。近年は荒れてしまっていたが、地元有志でつくるアヤメの会(堀内五男会長)が5年かけて復活させ、今では7万株が咲き誇る。見ごろは5月下旬〜6月上旬。

## 2017年、「新倉」が消える？

現在、住所としても健在の「新倉」の地名。来年行われる「住居表示」でなくなってしまうかも!?

住居表示は、「〇〇町1丁目2-3」



画像提供/富士吉田市市民課

というように、順序よく番号をつけてエリア分けをし直し、わかりやすい住所にする制度。来年は、「新倉」と「下吉田」の住所が混在している4自治会(浅間町、新町、泉町、宮下町)を対象に実施される予定で、新しい町名になる可能性が大。せっかく有名になった新倉の名前、やっぱりなくなっちゃうの？

「いえいえ。忠霊塔や浅間神社は住居表示の対象外区域なので、『新倉』のまま。少し離れた赤坂地区など、他の地域にも『新倉』は残ります」(富士吉田市市民課)

など、ひとまず安心。新しい町名がどうなるかも楽しみだ。

いで紹介された昨年は、桜の季節に近隣道路が大渋滞。今年は駐車場の分散などの工夫で混乱はなかったが、観光客に慣れていない地区ゆえに、動揺する住民もいる。

正福寺の遠山章信住職は、「街にとっては『新しい風』。それを私たちも楽しめれば良いと思います。よそから来た人をもてなすのは、私たちが人のために何かを『させてもらえる』機会になります」と、住民が寛容な気持ちで受け入れることを願っている。

### お答えします!

忠霊塔や浅間神社などに、「新倉」の名前は残ります!

### 住民のよりどころ 「新倉三山」

正福寺、大正寺、如来寺の新倉三山は、すべて浄土真宗本願寺派のお寺。同じ宗派が密集するのは、全国的にも珍しいんだとか。昔から信仰の篤い土地柄もあり、地域に開かれたお寺だ。本堂での映画上映や、境内でのコンサートなど、三カ寺で連携して様々なイベントも。昔も今も、住民のよりどころになっている。



### 開通1年

## 「吉田河口湖バイパス」ってどうなの!?

昨年の春に開通した、新倉と富士河口湖町河口地区を結ぶ「吉田河口湖バイパス」。6.5km、車で約12分かかっていた同じ区間を、新たに貫通したトンネルを経由して3.5km約4分で走れるようになった。付近は開発がはじまり、田園が広がっていた地区の景色は一変した。

信号もなく、混雑する朝の時間帯は、付近の小中学校に通う子どもたちが5分近くもバイパスを横断できない状態だ。この付近がリートだった、地元中学生が参加する「新倉三区マラソン」も昨年からは中止されている。

これを受けて、信号設置の検討も進んでいるが、道路によって地域が分断されてしまうことを心配する声もある。交通利便性と、住民の生活のバランスをどう取るか。新たな課題になりそうだ。

